

京丹後市立病院の運営方針（案）

- ・現時点での弥栄病院、久美浜病院の今後の運営の方針案
- ・京都府の第8次医療計画と併せて策定される地域医療構想との整合が必要。その場合には必要な変更、修正をする。

役割・機能の最適化と連携の強化		弥栄病院
①地域医療構想等を踏まえた病院の果たすべき役割・機能	病床機能	急性期病床：150床 回復期病床：49床
	診療科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標榜診療科目：19科（内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、脳神経内科、外科、整形外科、眼科、産婦人科、小児科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科、リハビリテーション科、皮膚科、麻酔科、リウマチ科、精神科、歯科） ・ 腎臓透析医療 ・ 指定病院の状況：救急告示病院、へき地医療拠点病院等
	他病院との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府立医科大学附属北部医療センター等丹後圏域内外の高度急性期病院と連携し、急性期を脱した患者の受け皿となる回復期病床（地域包括ケア病床）を確保する。また、分娩、人工透析、精神科外来など限られた施設で実施している診療科の連携を強化し地域医療提供体制を確保する。
	他医療機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のクリニックや診療所などの「かかりつけ医」と連携し、診療情報の共有化を図り、入院・退院後において適切な医療が提供できるよう、システム導入などにより更なる連携の強化を図る。 ・ へき地医療拠点病院として、診療医不在の診療所への医師や看護師等の派遣支援を継続する。
	薬局との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ マイナンバーカードを利用したオンライン資格確認等システムや電子処方箋システムを活用し薬剤情報等の共有化を図り、業務の効率化を目指す。
②地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能	在宅医療の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方が住み慣れた自宅で自分らしく療養生活を送れるよう、通院困難な方への訪問診療や訪問看護サービスの提供など、在宅医療提供体制の一層の充実を図る。また在宅復帰支援等の強化に向け、地域包括ケア病床を増床する。
	介護施設との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護・福祉施設等との連携を密にし、施設の利用者及び入所者の情報共有を図り、在宅医療と介護サービスが連携することで、必要な時に一体的なサービス提供が可能となるよう、包括的な支援・サービス提供体制の充実を図る。
	他医療機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療連携室による入退院調整の強化を図り、紹介率・逆紹介率の向上を目指す。他の医療機関との地域連携パス（脳卒中連携パス、5大がんパス、京都北部脳卒中、大腿骨骨折地域連携パス）の連携体制の充実強化を図る。
③新興感染症の感染拡大時等の取組	拡大時の入院体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症拡大時の受入候補医療機関として、可能な範囲で一般病床を感染症病床に転換し感染症患者の受入れ体制の確保を図ることとし、平時から転用可能な病床の体制としておく。
	拡大時の外来体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一次対応の医療機関として可能な範囲での外来対応、また、発熱外来設置や検査等の体制が速やかに可能となるよう平時から体制強化を図る。

京丹後市立病院の運営方針（案）

役割・機能の最適化と連携の強化		久美浜病院
①地域医療構想等を踏まえた病院の果たすべき役割・機能	病床機能	急性期病床：110床 慢性期病床：60床
	診療科目等	<ul style="list-style-type: none"> 標榜診療科目：17科（内科、外科、整形外科、小児科、眼科、泌尿器科、皮膚科、耳鼻咽喉科、心療内科、精神科、歯科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、麻酔科、小児外科、小児歯科、糖尿病内科） 指定病院の状況：救急告示病院、へき地医療拠点病院等
	他病院との連携	<ul style="list-style-type: none"> 高度急性期医療や脳血管疾患や心疾患など緊急性の高い医療について、丹後医療圏内にある京都府立医科大学附属北部医療センターや近隣の公立豊岡病院等との連携強化を図る。 市内にある各病院が受け持つ役割や医療機能を分担しながら、医療資源を最大限に活用した病病連携を図る。
	他医療機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 小児救急医療や2次救急医療機関としての役割を担うとともに、入院等が必要な患者への速やかな医療支援を行えるよう、丹後医療圏はもとより、兵庫県北部地域の他の医療機関との連携強化を図る。 へき地医療拠点病院として、診療医不在の診療所への医師や看護師等の派遣支援を継続する。 歯科診療においては、京丹後市口腔総合保健センターとして、他の歯科医院で治療のできない口腔疾患や障がい者歯科診療などを担うとともに、歯周病予防など「お口の健康（口）づくり」を市内歯科医院と連携し取り組む。
	薬局との連携	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤師が少ない当地域にあって、外来調剤だけでなく、在宅患者への服薬管理など「かかりつけ薬局」として市内の薬局が機能できるよう、病院薬局との薬薬連携を図る。
②地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能	在宅医療の取組	<ul style="list-style-type: none"> 病院、介護施設、行政など多くの団体・多職種で構成する「地域ケア会議」を定期開催し、医療や介護の必要な方の情報共有や課題整理を行い「最後まで寄り添い“ささえきる”まちづくり」に取り組む。 医療依存度の高い在宅高齢者等に「最後まで口から食べる」「最後までお風呂に入る」ことを保証できるよう、訪問歯科診療による誤嚥性肺炎の予防や訪問看護や訪問診療、訪問リハビリ、訪問入浴などあらゆる在宅サービスが切れ目なく行える取組をさらに進めていく。
	介護施設との連携	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の介護施設の嘱託医として、施設利用者の「かかりつけ医」としての役割を担うとともに、施設職員への医療的ケアの学習の場の提供や感染対策向上に向けた支援、また、施設での看取り支援など、介護施設との連携を図る。
	他医療機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療連携機能を強化し、医療や介護が必要な方の情報の収集や共有を進め、他の医療機関からの患者の受け入れなどを円滑に行えるよう連携を図る。
③新興感染症の感染拡大時等の取組	拡大時の入院体制	<ul style="list-style-type: none"> 現在、施設的に十分な感染・非感染のゾーニングが図れないため、感染リスクの低い回復期の患者を受け入れる協力医療機関としての役割を担う一方、老朽化する施設の改築を含め、感染拡大時に必要な機能を備えた施設・設備の整備を行う。
	拡大時の外来体制	<ul style="list-style-type: none"> 発熱外来や車内診療、電話診療など、院内感染を防止しながら必要な医療を提供する。